

検診の方法で苦慮

水俣病の潜伏患者発見 対象者が多くて

県は先に、水俣病の潜伏患者を発見するため一斉検診に乗り出す方針を決めたが、検診対象者が多数にのぼるため、その方法をどうするかで苦慮している。このため実施時期も大幅に遅れ、今秋ごろになる見通しである。

県公害課は、一斉検診に踏み切るとすれば、夏休み中にも実施し

たいとしてきた。ところが準備を進めていくうちに、困難な問題が続出、いまその方策について苦慮している。

同課が苦慮している点は、①検診範囲が水俣、芦北沿岸から対岸の御所浦、電ヶ岳におよぶ広い地域で、対象住民も約十万人。このため全住民を一斉に検診すること

が可能かどうか②またアンケート調査で一応ふるいにかけるとして、残された疑いのあるものについて検診する医師の陣容が整うかどうかーなど。

このため同課では、沿岸地域に限定して検診する方法を考えているが、これもどこで線を引くべきか、また線引きをしたとしても漁

業に従事していない住民も含めるべきかどうかで迷っている。

さらにアンケート調査の方法についても、果たしてアンケート用紙を配るだけでよいものか、聞き取り調査の必要はないかーなどの点を問題にしている。

このため当初予定していた七、八月ごろ実施も、この分では遅れ

る見通しが強くなり、早くても九月末か十月ごろようやくアンケート調査という段階になりそうである。

これについて公害課では、「大変な仕事であることが、改めてわかった。しかし水俣病の不安を取り除くためには、ぜひとも必要な検診であり、おそくとも今年度中に検診を完了したい。そのためには地域を限定することもやむを得ない。ことし実施する検診はとりあえず一万人前後になろう」と言っている。